

「楠学問」を目指して

元広島市教育センター所長 植田保之

「楠学問」という言葉がある。楠は生長は遅いが大木になるように、ゆっくりでも堅実に成長していく学問のことを指している。

楠は広島の木である。この春は見事な楠若葉を見ることができないのではと案じていた。昨年の台風19号の塩害によって葉が枯れ落ち、裸木同然になっていたからである。だが、自然は実によくできているもので、例年よりも早く美しい楠若葉の季節が訪れた。

楠が広島の木とされたのは、戦前から楠が多かったし、70年間草木も生えずといわれた原子砂漠にいち早く芽を出した木だからである。不安におののきながらも復興に努めていた広島市民にとって、楠は希望と勇気を与えてくれた木なのである。

楠は長い年月を経て見上げるような大木となる。国道54号線沿いの新庄の宮の社叢にも2本の巨木があり、「夫婦楠」の名で親しまれている。原爆で多くの楠が焼失したが、広島市民にとって忘れることができないのが国泰寺の大楠である。この大楠とは旧国泰寺境内にあった4本の巨木のことで、旧日本銀行広島支店の南側から電車を覆うように鬱蒼と茂っていた。開山当時植えられたというか

ら樹齢は300余年、樹高は20～30m、目通り周囲5～7mはあったであろう。大きな根は一部地上を這っていたため、大正元年に開通した電車軌道はそれを迂回し、歩道も太鼓橋のように盛り上がっていた。

この国泰寺の大楠も、原爆によって焼失してしまった。大きな根っこは都市計画の障害になるとして、昭和24年になって掘り起こされた。一帯に大きな根を張っていただけに、人の力だけで掘り起こすのは大変なことだったという。

さて、このところ、これまで買い求めてきた歴史随想や歴史紀行などを毎晩少しずつ読むことにしている。だが、情けないことに辞書とそれを見る虫眼鏡が手放せない。時に、「広辞苑」などの大きな辞書や漢和辞典も引かねばならず、年表や通史も繙かねば納得できないこともある。また、折角調べてもすぐに忘れてしまうのでノートを用意してメモをとることにした。いずれにしてもテレビを視るより骨の折れる仕事になりそうである。

人生80年時代、時間はたっぷりあるのだ。自分にとっての年相応の勉強と心得て、「楠学問」を目指して頑張ることにしよう。

特集 地域と学校

共同研究 「豊かな心を育てる体験的な活動に関する研究」

— 自然とかかわる活動を通して —

人間は様々な環境（人、自然、集団や社会等）とかかわる中で、様々な影響を受け、人間性を陶冶し、自己実現を図っていく。

科学技術の発達、人類に物質的な豊かさや便利さを与えている。反面、人間をとり巻く環境の変化等をもたらすとともに、人間のもつ様々な資質の退行や人間相互の触れ合い、思いやりの心等の希薄化という現象をもたらしている。したがって、学校教育において豊かな心をもつ子どもを育成することは、緊要な教育課題である。

ところで、子どもが身近な地域の自然や社会に積極的に働きかけかかわることは、子どもの成長に大きな意味をもっている。

地域の自然は、豊かな心（生命を尊重する心、真理を求める心など）を育てる上で教材となり得るものであり、その自然とかかわることを通して、鋭敏な感性と対象への共感能力を育てることのできるものである。

本研究は、どのような自然とかかわる活動を、どのように構成し教育実践することが、豊かな心をもつ子どもを育成することになるのかを、明らかにしようとするものである。なお、研究対象を児童に絞り研究をすすめた。

そこで、まず自然とかかわった体験の内容、心の豊かさについて児童の実態を探った。

図1～3は、調査結果の一部である。この結果から、次のことが明らかになった。

自然とかかわった体験に関すること

- ① 児童の体験は、自然という活動対象と積極的に深くかかわるということよりも、遊びという行動的な活動を介した触れ合いであることの方が多い（図1）。
- ② 五感を働かせて自然とかかわった体験をもつ児童が多くない（図1）。

心の豊かさに関すること

- ① 自然を大切にしようとする思いをもつ児童が多いにもかかわらず、草花の美しさやたくましさ（生命力）に感動した児童は、それ程多くない（図2）。
- ② 友達を援助しようとする態度をもつ児童が多いにもかかわらず、友達が困っているとき等に積極的に言葉かけをした児童はそれ程多くない（図3）。

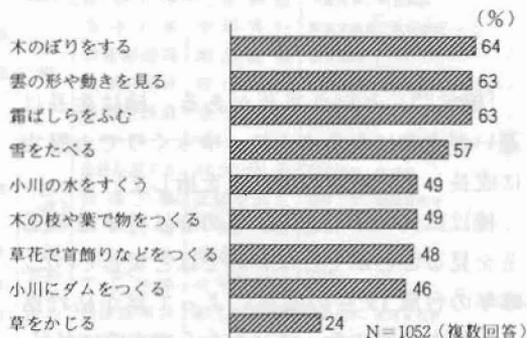


図1 日常生活における自然体験の内容（一部）

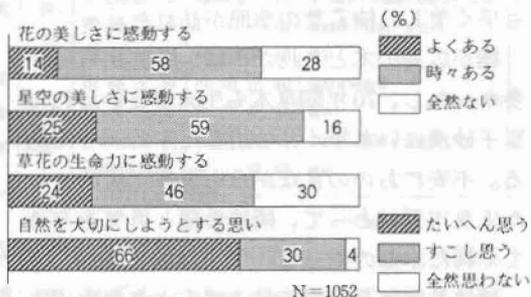


図2 自然に感動した体験と大切にしようとする思い

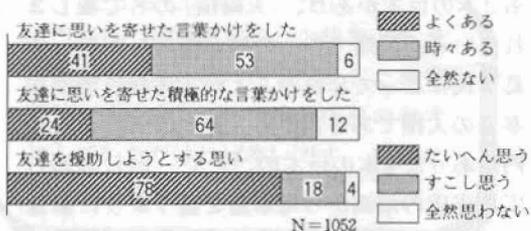


図3 友達を思いやった体験と援助しようとする思い

調査結果から、豊かな心をもつ児童に育てるためには、次のような学習活動を創造する必要があると考えられる。

- ① 児童が活動の対象を共感的に理解（理性的認識と感性的認識）できること。
 - ② 児童が対象とかかわることの楽しさを感じ味わえること。
- そこで、次のような学習の流れを構想した（図4）。

学習活動とねらい	活動例	留意点
1 対象に心を留め、興味・関心を喚起する活動 〔対象への意識化〕	調査活動、観察活動、探索活動、採集活動	○ 活動の導入であり、対象との出会いの段階であるので、活動意欲を喚起できるようにする
2 対象に親しむ活動 〔対象への共感〕	飼育・観察活動、栽培・観察活動、調査活動	○ 活動の展開・前段であり、対象への共感を促すとともに、知的好奇心を喚起、持続できるようにする
3 対象と関ずる活動 〔対象との一体化〕	集会活動、操作構成活動、製作活動（調理、劇等）	○ 活動の展開・後段であり、対象に対する理解を深め、共感能力を育てるようにする
4 対象から離れ、自己をみつめる活動 〔自己への振り返り〕	表現活動（新聞、絵本、ポスター等）	○ 活動のまとめであり、対象とかかわりを整理し、自己を深くみつめられるようにする。

図4 学習の流れ

図5は、図4の指導の構想、地域の特性等を踏まえ、研究協力員（広島市立小学校8校）の協力を得て行った事例の一つである。

本実践は、児童にとってあまり栽培した経験のない植物（ダイズ）を教材にし、自分たちの生活が自然の恵みによって支えられていることに気づき、自然を大切にしようとする気持ちを育てることをねらいとしている。

そして、このねらいにせまるために、栽培・観察活動を中心に学習活動が構成されている。また、豆腐づくりという製作活動が取り入れられている。

	小活動名	具体的な活動
お い し い と う ふ を つ く ろ う	○ 大豆となかよくなるろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「みる」「さわる」等して、ダイズの色、形、表面の様子を観察する ・ 観察したことを観察カードに絵日記風にまとめる ・ 農家の人の話や植物図鑑等を参考に、栽培計画を立てる
	○ 大豆の成長と自分の成長をくらべてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培計画を基にして、ダイズを育てる ・ 成長する過程を観察し、観察カードに絵日記風にまとめる ・ * 児童自身の成長と比較し、気付いたことがあれば、そのことを記入させる
	○ おいしいとうふをつくろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培したダイズを取入れ、豆腐づくりをする ・ * 七つの係を設け、分担して豆腐づくりをさせる
	○ 大豆集会を開こう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集会の計画を立て、準備する ・ 集会を開く（集会の出し物） ダイズや豆腐に関する紙芝居、かえ歌、クイズ ・ 豆腐を試食する ・ * できた豆腐の一部を家庭に持ち帰らせる ・ 活動して感じたことを手紙にまとめる

図5 「おいしいとうふをつくろう」の指導計画

他の実践として、地域に自生する野草を採集し試食する活動、川にすむ生物を採取し飼育する活動、川の水質を調査する活動等がある。

地域には、様々な自然や社会があり、人間や他の生物の営みがある。地域は、人間性を育てる宝庫であると言える。

広島市教育センター指導主事 井崎 明
指導主事 吉竹 邦昭

教育実践基礎講座(7)

生活科授業における教師のかかわり方

— おもちゃ作りの単元を通して —

生活科の授業では、児童の自発性や能動性を重視し、一人一人の児童が自ら意欲的に活動することを大切にします。教師は児童のやりたいことをつかみ、援助し、児童が熱中する授業をつくっていかねばなりません。そのためには教師は児童にどのようにかかわっていけばよいのでしょうか。今回は、生活科授業における教師の児童へのかかわり方のポイントについてまとめてみました。

1 見守る

図1はH小学校2学年のおもちゃ作りの指導計画と大会のプログラムです。第二次での竹おもちゃ大会の製作場面では、教師はできるだけ児童の活動に口を出さず見守るようにしていました。あれこれ先に教えるのではなく児童から問われたら答える程度にします。

2 気付かせる

第一次で、児童に竹の想像画を描かせた後、竹林に連れていきました。児童は、竹の高さや節、根の多さなどに驚き、竹への関心は高まっていったようです。このように具体的な活動や体験をさせて課題に気付かせていきます。

3 呼びかけをする

「みんな、竹のおもちゃ持っていない？」
「みんなでおもちゃ大会をしよう！」
「みんなで遊ぼうよ」など教師は単元の見通しをもって児童に積極的に呼びかけていきます。

4 発問をする

「来てもらったお年寄りにお礼をしたいのだけど、いい考えはないですか？」など、話し合いの場面では教師が発問して学級や個人のためあてをつくらせていきます。

5 モデルを提示する

教師は、「この間、先生これで遊んだよ」

広島市教育センター指導主事 木村正信

と教室に竹でできたおもちゃを持ち込み、自由に児童に遊ばせていました。こうした提示により児童は竹への興味・関心を高めたようです。教師はモデルを示したり、自らモデルになったりします。

6 情報を提供する

教師は、「こんなのも作れるよ」「○○ちゃんはこのようにしていたよ」などいろいろな情報を児童に提供します。そうすることによって活動意欲の乏しい児童を側面的に援助していくのです。

以上教師が授業を進めていく時のかかわり方を示しましたが、これらの他にも、説明をする、まとめをする、指示をする、体験をさせる、確認をする、批評をする、など基本的な12通りぐらいのかかわり方が考えられます。

「竹となかよしになろう」(17時間)

第一次 竹に聞いてみよう (5時間)

- ・竹について知っていることを話し合い、竹を想像して描く。
- ・竹の見学に行く。
- ・驚いたことや不思議に思ったことについて話し合う。
- ・竹について調べてきたことを発表する。

第二次 竹おもちゃ大会をひらこう (8時間)

- ・大会をひらく計画を立てる。
- ・作ってみたいものの設計図をかく。
- ・お年寄りへの案内状を作る。
- ・大会をひらく。

竹おもちゃ大会プログラム

- 1 はじめのことば
- 2 おじいさん、おばあさんのしょうかい
- 3 おじいさんからの話
- 4 パンブーダンス(2年)
- 5 先生からの話
- 6 竹おもちゃづくり
- 7 おじいさんからのことば
- 8 おわりのことば
- 9 あとかたづけ

第三次 竹とあそぼう (4時間)

- ・出来上がった作品を紹介し、使って遊ぶ。
- ・お年寄りへお礼をする方法を考える。

図1 指導計画と大会のプログラム

生活科では特に、一人一人の児童にいつ、どのような援助をするかが教師に求められています。実践を通して、教師のかかわり方を探っていききたいものです。

「巨視的展望にたった研修を」

翠町小学校教諭 勝盛康雅

「すぐに役立つ」という甘い言葉に誘われる時、妙に浅薄なものを感じるのは私だけでしょうか。私は、即効性のある研修以上に教師としての資質向上につながるような巨視的展望に立った研修に力を入れたいと考えています。



「新発見の楽しさ」

美鈴が丘高等学校教諭 赤木昌彦

漆器の漆下地を重ねることが上塗りの深みを増すように、様々な勉強がよい授業をつくるには大切だと考え、あらゆる機会をとらえ勉強している。学会誌の論文、新聞記事等までいたるところで新発見をする楽しみがある。この知る楽しさを授業において生徒に教えていきたい。



「これからの英語科教育」

己斐上中学校教諭 立畑 薫

英語科では、文法訳読式からAETとの協同授業などに見られるコミュニケーション能力の育成を中心とした授業が主流となっている。「書くこと」の言語活動を従来の和文英訳に終始せず、いかにしてコミュニケーション活動として授業の中に取り入れていくかが私の研修課題の一つである。



私 と 研 修

平成3年度

研修講座参加者数 12,091人

「広島を文化を育てたい」

船越公民館主事 新川勝次

情報化社会の進展、余暇時間の増大ともなって、自主研修の機会も増えてきた。

国際平和文化都市をめざす広島市の社会教育を担当する職員として、平和を原点とした文化を創造する担い手となるよう自らの研修に努めたい。そして、市民とともに広島を文化を育てていきたい。



教育センターひろば

教員特別研修生

(平成4年4月～9月)

今年度前期は次の6名の先生方が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

国語科教育：橋本綾子 教諭（安西小）

社会科教育：宮本聖子 教諭（東原中）

数学科教育：宮奥 透 教諭（祇園中）

理科教育：川谷卓哉 教諭（真亀小）

教育相談：青山由紀夫 教諭（戸坂小）

幼稚園教育：中山千恵 教諭（船越幼）

教員特別研修研究員

(平成4年4月～平成5年3月)

校内研修：北山英治 教諭（祇園小）

校内研修：山田重則 教諭（城山北中）

職員の異動

* 離退任

～在任中はおせわになりました～

西川勝土主任指導主事（日浦中学校へ）

西村達男指導主事（高陽中学校へ）

畑野孝治主任（現代美術館へ）

末森一男教育相談員（退職）

久保田澄教育相談員（退職）

* 就任

～どうぞよろしく～

谷崎あけみ主任（人事委員会から）

福原正明指導主事（高取北中学校から）

松浦俊雄指導主事（美鈴が丘中学校から）

前田典生教育相談員（前翠町中学校長）

室中弘道教育相談員（前鈴が峰小学校長）

職員・分掌

部	事業等	職名	氏名	担当業務
		所次長	小西清彦 上野琢司	所務総括 所務管理・執行
管理	庶務・経理	主任主事	谷崎あけみ 保本早苗 橋本佳和	部内総括、施設設備の維持・管理 公印、給与、文書処理、経理等 予算、決算、経理等
第一	教育相談・広報	主任指導主事 指導主事 指導主事 指導主事 指導主事 教育相談員 教育相談員 教育相談員	民安和昭 松田了二 宮脇いち子 木村正信 三原裕隆 中尾秀行 用品直義 前田典生 室中弘道	部内総括、算数科、数学科 生徒指導、教育相談、同和教育 幼稚園教育 生活科、特別活動、社会教育 生徒指導、教育相談 障害児教育、教育相談 教育相談 教育相談 教育相談
第二	研究・教育資料関係	主任指導主事 指導主事 指導主事 指導主事 指導主事 研修指導員 図書資料室嘱託	財津伸子 正坊地武生 井崎明 福原正明 吉竹邦昭 杉山武郎 天下千賀子	部内総括、国語科 教育工学、視聴覚教育 音楽科 図画工作科、美術科 社会科、道徳 教育工学、視聴覚教育 図書資料関係事務
第三	研修	主任指導主事 指導主事 指導主事 指導主事 指導主事 研修指導員 研修指導員	福原敏治郎 江田英俊 越智文剛 沖増正和 松浦俊雄 木戸義明 片山貞昭	部内総括、外国語(英語)科、企画 家庭科、技術・家庭科 理科 国際理解教育 理科 家庭科、技術・家庭科 理科

表紙絵 広島市立青崎小学校長 澤井 隆三

題字 広島市立広島商業高等学校教諭 進藤 正則

編 集 後 記

今回は「地域と学校」の特集としました。今、地域の特性を生かした教育実践が求められています。指導の参考にしていただければ幸いです。次回は教育相談を中心に企画しています。

